

# ヒマラヤ山系 6189メートル峰に登頂

## 横浜市大 探検部 創部以来の念願果たす



アイランド・ピークに立つ高梨・横浜市大探検部副隊長(左)とシェルパ

横浜市立大学探検部田村康一隊長(三)ら五人は、昭和三十三年の創部以来、念願だったヒマラヤ山系の中の六千層級の登頂を目指し、今年二月末ネパールを訪れたが、三月八日、副隊長一人が登頂に成功、このほど全隊員が無事に帰国した。

市大探検部が目指したのは、ヒマラヤ山系の六二八九層級のアイランド・ピーク。パイオなどで一人平均二十五万円を用意、三月五日パレシヤ・ギャブという所に到着、ベースキャンプを設けた。この前後二隊員が高山病などで体調をこわしたが、

八日午前三時すぎ、田村隊長、高梨洋之副隊長(三)とシェルパオーストラリア人、同行のガイ

ドの計五人で登頂を旨ざした。田村隊長は百層手前で高山病に襲われ、残る四人が午前十一時三十分、頂上に立った。探検隊は往復の道すがら、環境の変化も調べた。草類の調査結果は年内に報告書をまとめ、登頂そのものもスライドなどを使い、秋の大学祭で報告する。田村隊長は、「ネパールのヒマラヤには年間二十五万人が訪れているが、地元民が登山者を迎えるため宿舎で使う燃料として立ち木を次々と伐採している。元来木の少ない高地が更に荒れて行く。登山者が捨てるゴミ、し尿も問題で、いまのうちに手を打たないと、観光や登山どころではなくなると思う」と語っている。

## 市大探検部が来年二月 念願のヒマラヤに挑戦



に成田をたち、二十六日、ルクに集結する。

三月五日ベースキャンプを設け、六日から登りを始め、水河を踏破しヒマラヤ山系の中の標高六一八九層のアイランド・ピークに登頂、二十二日に帰国する。

横浜市立大学探検部が来年二月、ネパールへ出かけ、ヒマラヤの六千層級の山に登ることにした。ヒマラヤ行きは昭和三十三年の創部以来、部の念願だった。

計画では、探検隊は文理学部四年田村康一(三)を隊長に計五人、二月十一日に正副隊長一人が先発、残る三人も二十二日

この登頂活動に並行して、近年増加し続けるネパールへの登山隊、旅行者たちの地元住民や自然環境への影響を文化人類学、生態学の立場から観察することになっている。

田村隊長は「日程にゆとりをもたせ、安全第一で行ってきた」といっている。